

概要

本研究では、近年盛んにおこなわれている小学校の統廃合に着目し、特に統合後使われなくなった学校がどのような経緯で再利用に至ったのか自治体による位置づけや現在の管理団体ごとで分けし、また再利用における地域住民の役割について考察した。考察にあたって富山県を題材とし、富山県の各自治体にアンケート調査と活用団体別に企業・住民・地域有志から事例ずつを選び事例調査を行った。空き校舎再利用において住民は主に利用者としての側面と地域の有志層による管理主体としての側面がみられた。またこれらは富山県では自治体が廃校後の主な管理主体であり、住民のための施設利用を目指す傾向が強かった。そのため住民に対し意見を求めたりすることが多く、このことが住民に影響力を持つきっかけとなっていると考えられる。

キーワード：跡地利用， 地域住民， 地域有志， 自治体， 富山県